

上海にて大分県物産フェア開催

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

大分銀行香港駐在員事務所の江口です。本稿から、香港およびアジア地区の様子をお伝えします。どうぞよろしくお願いいたします。

第一回目は、上海の話題です。

2025年3月15、16日の両日、上海にて大分県物産フェアが開催されました。

上海は言わずと知れた中国最大の商業都市です。常住人口は約2,500万人にのぼり、首都北京と並ぶ人口規模を誇ります。面積は大分県とほぼ同じ（上海：6,340km²、大分県6,339km²）ですので、大分県の人口111万人と比べると、この都市の市場規模がいかに大きいか実感できます。

大分県フェアは、昨年度と同じく、上海市内にある「ららぽーと金橋店」にて開催されました。会場周辺は近年開発が進んでいる地域で、上海タワーなどのある金融貿易エリアからのアクセスも良好です。



多くの来場者で賑わう大分県フェアの様子

今回のフェアでは、店舗スペースを貸し切り、県内4事業者および現地で県産品を取り扱うバイヤー5社が出展。会場には2日間で1,000人を超える来場者があり、活況を呈していました。

ノベルティや県産品が当たる抽選会には、4店舗先までの長い行列ができたほどです。

※写真は筆者撮影

上海にて大分県物産フェア開催

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史



足湯体験の様子

県産品の展示・販売のほか、足湯体験できるスペースも設置し、インバウンド誘致のための「おんせん県おおいた」の認知度向上にも取り組んでいました。来場者からは、「大分県に旅行して、温泉に入りたくなりました」との声も聞かれました。



メジロンと写真撮影する来場者

会場にはメジロンも登場。子供たちに大人気でした。



※写真は筆者撮影

上海にて大分県物産フェア開催

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

「ららぽーと金橋店」では、JETROが主催する「第4回 上海ジャパンプランド」フェアも開催されており、大阪万博のキャラクターである「みやくみやく」も駆けつけ、PRしていました。



上海ジャパンプランド開会式の様子

日本と中国の関係においては、訪中時のビザ解禁といった前向きな動きも見られる一方で、水産物の輸入規制は続いています。政治的な思惑が両国の貿易取引に影響を及ぼす環境下ではあるものの、ビジネス上重要なパートナーであることに変わりはありません。早期の正常化が待たれます。

※写真は筆者撮影